

セーフティ プロモーション スクール 認証申請書

Safety Promotion School Designation application



石巻市立鮎川小学校

Ayukawa Erementary School

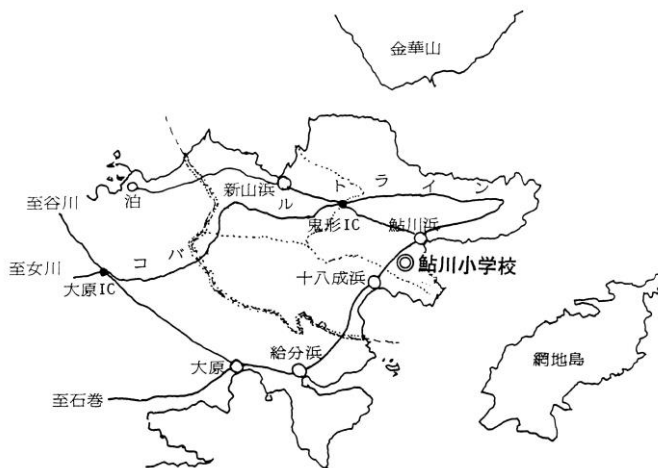
目次

学校概要	1
セーフティ プロモーション スクールの7つの指標	3
指標1・2	4
指標3	5
指標4	6
指標5	7
指標6	8
指標7	9
資料 写真	10
" 授業実践	14
" 避難訓練	17
" 防災だより	23
" 保健資料	35
活動マトリックス表	37

石巻市立鮎川小学校の概要

1 学区の概要

石巻市立鮎川小学校は、北緯38°17'58"、東経141°30'18"、海拔82.5m、宮城県の東端牡鹿半島のほぼ先端に位置している。また、石巻市中心部から県道石巻～鮎川線で約35kmと交通の便はあまり良くない。気候は温暖で、最高気温の年平均は16.3°Cであり、寒暖の差もあまりない。当学区は、鮎川浜、新山浜、十八成浜、網地島などからなる。かつては鯨の町として活況を呈したが、商業捕鯨の禁止にともなう捕鯨の衰退や基幹産業である水産業の不振とともに、人口の減少傾向がはじまり、児童数も昭和34年の909人を最高に減少の一途をたどっている。東日本大震災では、在籍児童は全員無事であったが、家の流失・全半壊等により家庭環境が大きく変わってしまった家庭が多く、児童はさらに減少傾向にある。しかし、地域の伝統文化の学習を取り入れ協働による復興を進めたり、ユネスコスクールに加盟しESD活動に取り組むなど、活力と特色ある教育活動を展開している。平成27年度より2年間みやぎ防災教育推進協力校の指定を受けている。



2 教職員数と在籍児童

教職員数

職名	人数	内訳
校長	1	
教頭	1	
教諭	5	教務主任1名 学級担任4名
養護教諭	1	
事務	1	
用務員	1	
支援員	1	

在籍児童数（平成29年2月1日現在）

学年	学級数	児童数	合計
1年	1	4	4
2年		4	4
3年	1	5	5
4年		2	2
5年	1	6	6
6年		3	3
たんぼぼ学級	1	1	1
合計	4	25	25

たんぼぼ学級とは、病弱の児童が在籍する特別支援学級です。

3 教育目標及び目指す児童像

- (1) 教育目標 「夢と志をもち心身ともに健康で実践力のある児童の育成」
- (2) 目指す児童像
 - 「自ら進んで学習する子」 (確かな学力)
 - 「明るく思いやりのある子」 (豊かな人間性)
 - 「じょうぶでがんばる子」 (健康・体力)

4 安全教育に係るこれまでの取組

3. 9	県 P T A 安全会表彰 (安全対策無事故)
5. 7	県 P T A 交通安全教育表彰
8.11	少年消防クラブ結成 (4 学年)
13.11	少年消防クラブ表彰
20. 1	防災訓練 (放射能漏れ)
21. 1	登下校・自転車乗車時ヘルメット着用開始
23. 3	東日本大震災発生 校舎の壁亀裂多数
23. 5	校庭に仮設住宅 5 8 戸建設
24. 6	地域防災連絡協議会発足。地域との合同避難訓練・引き渡し訓練実施
24.10	実践的防災教育総合支援事業モデル校に指定
25. 7	河北新報社, 防災ワークショップ「むすび塾」を開催
26. 2	東北 E S D プログラムチャレンジ表彰
26.10	東北地区ユネスコスクール実践大賞受賞
27.10	宮城県教育委員会 防災教育推進協力校中間発表会
28.11	宮城県教育委員会 防災教育推進協力校実践公開研究会

セーフティ プロモーション スクールの7つの指標

<p>指標1 (組織)</p>	<p>学校内に、学校安全に関わる活動の中核を担う「学校安全コーディネーター」等を設置し、その「学校安全コーディネーター」を中心とする学校安全推進のための委員会（以下「学校安全委員会」）が設置されている。</p> <p>なお、学校安全委員会は、「学校安全コーディネーター」のほか、校長、教頭等の学校管理職を含む教職員の代表、児童生徒の代表、PTA代表、学校を管轄する地域の警察署・消防署の代表、学校のある地域自治会の代表、スクールガードリーダー等の学校ボランティアの代表等から構成させることが望ましい。</p>
<p>指標2 (方略)</p>	<p>学校において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域（「3領域」と表記）の学校安全推進のための「中期目標・中期計画（3年間程度）」が設定されている。</p>
<p>指標3 (計画)</p>	<p>学校安全委員会において、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が策定されている。</p>
<p>指標4 (実践)</p>	<p>策定された「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている。</p>
<p>指標5 (評価)</p>	<p>学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ分析に基づく明確な根拠をもとに学校安全推進活動に対する評価が行われている。</p>
<p>指標6 (改善)</p>	<p>学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。</p>
<p>指標7 (共有)</p>	<p>学校安全推進に関わる活動の成果が、当該の学校関係者や地域関係者に広報・共有されるとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の発信・共有と新たな情報の収集が継続的に実践されている。</p>

指標 1 : 学校安全委員会

区分	役職
教職員代表	校長, 教頭, 教務主任, 安全主任, 防災主任, 養護教諭
児童代表	計画委員会
P T A代表	P T A代表
警察関係者	石巻警察署 牡鹿駐在所 所長
消防関係者	女川消防署 牡鹿出張所 所長
地域代表	児童の見守り隊
学校関係	石巻市立牡鹿中学校長

指標 2 : セーフティ プロモーション スクール活動【中期目標・中期計画】

分野	中期目標・中期計画
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの発生原因を教員と児童との間で共通理解することで自ら危険を回避できる力を高めることや, 教員による安全点検による危険箇所の把握及び環境の改善に努める。 →けがの発生件数を前年比10%減少する。 →教員の手による環境の改善を定期的に行う。 ・安全教育をとおして児童が自ら危険を予測し, 回避できる能力を育成する。 →不審者対応避難訓練, 各学年指導計画に基づいた安全学習の実施 →防犯ブザー着用への奨励と高学年で応急手当, 通報訓練, A E Dの使い方の学習を避難訓練と合わせて行う。
災害安全 ・地震・津波対策 ・風水害対策 ・火災予防	<ul style="list-style-type: none"> ・震災などによって学校待機となった児童を, 保護者が引き取りにくることを想定した児童引渡し訓練を毎年, 運営・研鑽することにより災害時の動きに備える。 →学校・地域共同備蓄品の点検及び定期的な更新を行う。児童は緊急時を意識した防災バックの中身を考え, 各家庭で準備・保管する。 ・参観日に教職員, 児童, 保護者が参加した合同避難訓練を実施する。 →緊急地震速報を使用した避難訓練や火災を想定した避難訓練を年6回行う。 ・各種団体及び, 関係機関と連携した研修や避難訓練を行う。 →消防署, 警察署, 石巻市役所牡鹿支所との連携
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室と自転車安全教室を年間2回実施する。 →警察などの関係機関の協力を得て専門的な内容も学ぶようにする。 →D V Dなどの視聴覚教材を用いて児童の理解を深める。 ・地域の交通安全巡視員からの見守り活動を定期的に行うことで登下校の安全を守る。 ・安全指導の充実を図り, 児童自らが危険を予測し, 回避できる能力を育成する。 ・地域の危険箇所点検や登下校時の避難訓練を児童とともに実施する。 →各学年における副読本等を用いて安全指導を実施する。

指標3：セーフティ プロモーション スクール活動【年間計画】（平成28年度）

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外傷の発生原因を教員と児童との間で共通理解することで、自ら危険を回避できる力を高める。 ○ 安全指導の授業によって一人一人の危険予知能力及び危険回避能力を育成する。 ○ 廊下の歩き方や休み時間の約束について指導し、全校児童が校内で安全に過ごせるようにする。 ○ 不審者対応避難訓練を行うことにより、緊急事態に落ち着いて対応できる力を身につける。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室や廊下、運動場、体育館などの校内の危険箇所の点検を徹底して行う。 ○ 定例打合せにおいて完全管理について情報交換を行い、教職員の連携を深める。 ○ 休み時間や放課後に校内・校外を巡回し、危険な行動を防いだり指導したりする。 ○ 登下校ルート of 安全確認をし、児童が安全に過ごせるようにする。 ○ 食物アレルギー等の研修会を実施し、児童一人一人に対応した完全管理を行う
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急救命講習・訓練をとおして教職員間の救命スキルを高める。 ○ 不審者対応マニュアルを策定する。 ○ 不審者対応の訓練を全職員が行い、連携を密にする。 ○ 学校保健委員会で学校の取組を報告し、外部からの評価を受ける。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震・火災の避難訓練を年6回実施し、児童の防災スキルを高める。 ○ 防災に関する授業を学級活動の時間の年間指導計画に組み入れる。 ○ 縦割り活動や災害体験訓練を通して、災害時のための高学年のリーダーシップを学ぶ。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マニュアルに基づき、教職員のそれぞれの役割を果たす。 ○ 教員による毎月の校内安全点検をする。 ○ 災害時における保護者への連絡体制を確実なものにする。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急救命講習・訓練をとおして教職員間の救命スキルを高める。 ○ 地域や消防署、警察署、支所と連携した安全教育を実施する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に登下校しようとする態度を育てる。 ○ 自転車安全教室と交通安全教室を年2回実施する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に校区内を巡回し、児童の安全を確保する。 ○ 安全な経路を通学路として定める。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関と連携し、地域の情報を共通理解する。 ○ 保護者や地域の協力を得て登下校の安全が確保されるように努める。 ○ 地域や消防署、警察署、支所と連携した安全教育を実施する。

指標4：セーフティ プロモーション スクール活動【実践】（平成28年度）

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがの手当ての学習をとおして、けがの種類や発生原因を知る ○ 授業など、安全学習の充実を図る。 ○ 授業中に不審者が侵入したという想定で避難訓練を行う。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度初めにアレルギー対応等研修会を行う。 ○ 月1回、担当箇所の施設設備及び遊具の安全点検をおこなう。 ○ 休み時間や放課後に校内・校外を巡回し、危険な行動を防いだし指導したりする。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石巻警察署牡鹿駐在所の警察官に不審者役を演じてもらい、不審者対応の実地訓練を全職員で行う。 ○ 女川消防署牡鹿出張所と協力により、救急救命講習・訓練を行い、教職員間の救命スキルを高める。 ○ 緊急時や下校時刻等に変更が生じた場合にメールシステムを活用する。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震や火災の避難訓練を年6回実施する。 ○ 防災教育年間指導計画に基づき、特設した「防災の時間」や学級活動、学校行事等の中で防災教育に取り組む。 ○ 防災ノートを活用し、学びを累積していく。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マニュアルに基づき、教職員がそれぞれの役割を果たす。 ○ 避難訓練とあわせて地域の危険箇所確認を児童と一緒に行う。 ○ 学校・地域共同備品の定期的な点検と更新を行う。 ○ 年1回各家庭で保管している防災バック中身を確認する。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女川消防署牡鹿出張所と連携して救急救命講習を実施する。 ○ 保護者・地域・関係機関と連携し合同避難訓練を行う。 ○ 学校防災教育地域連絡会議により、防災意識の高揚と地域ぐるみの防災の充実を図る。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石巻警察署牡鹿駐在所の協力により、交通安全教室と自転車安全教室を実施する。 ○ 安全学習は関係機関の協力により専門的な知識を学ぶとともにDVDなど分かりやすい視聴覚教材を用い、より具体的な指導を行う。 ○ 月1回通学指導を行い、ふだんの登下校の様子について確認する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年4回学校区パトロールを実施する。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方の見守り等による児童の登下校時の安全確保を行う。

指標5：セーフティ プロモーション スクール活動【評価】（平成28年度）

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがの種類や発生原因を知ることで、予防への意識が高まった。 ○ いろいろな避難訓練ごとに避難の仕方が変わることを、児童に意識付けることができた。また、放送をよく聞く姿勢も身についた。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員間でアレルギーを持つ児童を共通理解することができ、全職員で対応することができた。 ○ 安全点検を行い、危険箇所の修繕を行った。 ○ 危険な遊び方や正しくない遊具の使い方など、適宜指導を行った。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の不審者への対応訓練を行い、校内での対応の仕方について共通理解するよい機会となった。 ○ 年1回、確認する機会があることで、救命スキルを維持するとともに、職員の意識も高めることができた。 ○ メールシステムを活用することで、素早く一斉に保護者に周知することができた。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震発生時の1次避難については、全児童が素早く行動することができる。 ○ 防災の時間、学級活動、学校行事の内容をパッケージ化することで、児童にも分かりやすい学びとなり、防災意識を高めることができた。 ○ 防災ノートが学びの振り返りや知識の蓄積に役立っている。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マニュアルに基づき、迅速な対応をとることができた。 ○ 危険箇所の点検を児童と一緒に行うことで、職員と児童との間で共通理解が図れた。 ○ 備蓄品の消費期限など、常に確認が行われている。 ○ 各家庭の協力のもと、防災バックの中身を確認する機会を設けることで、保護者の意識も高めることができた。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消防署との連携による救急救命講習は救命スキルを維持するとともに、職員の意識も高めることができた。 ○ 合同避難訓練は地域住民の避難意識を高めるとともに、地域に根ざした活動となった。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通安全教室と自転車安全教室は児童の交通安全についての意識を高めることができた。 ○ 視聴覚教材を活用することで、どのような危険が隠れているかをわかりやすく指導することができた。 ○ 交通安全、危険予知を定期的に指導することができた。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学区パトロールにより、地域の様子（復興状況の確認を含む）の変化や、新たな危険箇所の発見をすることができた。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方の見守り等によりは児童の安全確保が図れるとともに、見守りの皆様には地域と学校をつなぐ架け橋となっていた。

指標6：セーフティ プロモーション スクール活動【改善】（平成28年度）

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがの予防について、担任と養護教諭が連携を図りながら充実した指導を継続する。 ○ 不審者の想定には様々なパターンや要素があり、今後も話し合いや訓練を通じて改善を図る。 ○ ヒルやマムシなど地域に生息する危険生物への対応について指導を行う。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ アレルギー対応等も含めた児童理解の場を定期的開催する。 ○ 安全点検は定期的、また継続的に行うことが難しい時もあるため、巡回方法の改善を図る。 ○ 児童や保護者の目線での安全点検を実施する。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全連携に係るマニュアル等の確認を新学期に前に行い、職員の共通理解を図る。 ○ 緊急時の連絡方法を再確認するとともに、連絡がつかないことの場合の対応について職員間で事前に共通理解しておく。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアルに基づき職員が出勤する際、津波被害地域を通らなければいけないので、津波の場合の対応について改善する。 ○ 防災教育の内容を安全教育の枠組みの中で再編成する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の危険箇所確認により、定期的に危険箇所の更新をする。 ○ 避難訓練ごとに反省を行い、改善を図る。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難訓練等に、より多くの地域の方に参加していただくための工夫について、担当部にて検討する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学指導においては、ふだんの登下校の様子から具体的指導を行い、児童の主体的な行動を促す。 ○ 担当部の評価を基に、定期的に改善を図っていく。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学区パトロールにより、安全管理上の確認を行うとともに、安全委員会において安全管理の検討を行う。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員会議等で関係諸機関、PTA等との連携内容を検討し交通安全指導の充実を図っていく。

指標 7 : セーフティ プロモーション スクール活動【共有】(平成 28 年度)

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○ 11月に防災教育を中心とした学校安全フォーラム(主催:宮城県教育委員会,東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター)において「セーフティ プロモーション スクール認証による学校安全体制構築を目指して」と題して学校安全実践発表を行った。
	安全管理	○ 職員会議等で安全についての情報共有を行った。
	安全連携	○ 児童の傷害発生状況を学校保健委員会で学校三師,保護者,教職員で共有した。 ○ 不審者対応訓練の実施について警察署と協議を行った。 ○ 保健だより等で生活安全に係る情報提供を定期的に行った。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	○ みやぎ防災教育推進協力校事業において,授業を公開し,本校の防災教育の実践について発表した。 ○ 学校安全フォーラムにおいて,学校安全実践発表を行った。(再掲) ○ 平成 28 年度学校安全コーディネーター養成研修において本校の取組を発表した。 ○ 平成 28 年度みやぎ安全推進ネットワーク会議において情報提供を行った。 ○ 第 6 回学校危機メンタルサポートセンター・シンポジウムにおいて発表を行った。
	安全管理	○ 東松島市防災教育研修会において本校の取組を発表した。 ○ 大崎市立岩出山小学校防災・安全教育シンポジウムにおいて本校の取組を発表した。 ○ 防災教育への取組についての教職員,保護者による学校評価について職員会議等で情報を共有した。
	安全連携	○ 牡鹿地区学校防災教育地域連絡会議で情報提供を行った。 ○ 防災だより等において災害安全に係る情報提供を定期的に行った。 ○ 合同避難訓練時に地域,保護者と防災に関する情報の共有を行った。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○ 学校安全フォーラムにおいて,学校安全実践発表を行った。(再掲)
	安全管理	○ 職員会議等で安全についての情報共有を行った。
	安全連携	○ 学校安全委員会で情報収集と情報共有を行った。